

福山市学校規模・学校配置の適正化計画 (第1要件)

2015年(平成27年)8月

福山市教育委員会

目 次

はじめに	1
1 学校規模・学校配置の適正化の取組にあたって	2
(1) 適正規模の基準		
(2) 適正規模とすることにより得られる教育効果		
2 適正化の取組方針	3
(1) 基本的な考え方		
(2) 再編対象校と適正化の方策		
(3) 適正化に向けた取組の進め方		
(4) 考慮すべき事項		
3 学校別適正配置実施計画	7
【小学校】		
東村小学校	7
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		
山野小学校	10
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		
広瀬小学校	13
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		
服部小学校	16
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

内浦小学校	……	19
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

内海小学校	……	22
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

【中学校】

山野中学校	……	25
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

広瀬中学校	……	28
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

内海中学校	……	31
(1) 現状と課題		
(2) 適正配置の方針		
(3) 開校までの流れ		

(参考資料)

福山市立小・中学校の位置図

はじめに

本市では、本年4月から、「福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども」を育てるため、義務教育9年間を一体的に捉えた小中一貫教育を市内全中学校区において全面実施し、乗り入れ授業や地域と連携した学習活動など、各中学校区が作成したカリキュラムに基づいた取組を進めています。

全国的な少子化が進む中、本市においても公立の小学校及び中学校（以下「小中学校」という。）に通う児童生徒数は減少しており、25年後の2040年（平成52年）には、現在の児童生徒数の3分の1が減少することが見込まれています。一方、本市では、1960年代の大企業の誘致等により急激に人口が増え、小中学校の分離新設が進み、現在112校（休校2校を除く。）ありますが、児童生徒数が減少し、今後も減少が見込まれる中で、学校配置はその当時と変わっていないことから、学校の小規模化が進行しています。

また、情報化やグローバル化の進展、科学技術の発展に伴い、国際間競争の激化や人・物・情報の国境を越えた流通が進んでいます。このような変化の激しい時代を生きる子どもたちは、知識や情報を活用して新しいものを考え出す能力や解決すべき課題を自ら発見し解決する力、国内外を問わず、様々な人々とのコミュニケーションを通し、多様な考え方に触れる中で、自己の意見も主張しながら、より良い答えを導き出す力が求められています。こうした力や能力を育てるためには、「教師が子どもたちに教え込む（知識伝達・習得型）」授業から「子どもたちが自ら考え学ぶ（思考・判断・表現型）」授業に転換するとともに、日々の授業や部活動など、多くの友達関係や多様な人間関係の中で進められる教育活動を通し、お互いのコミュニケーションを深める中で、様々な考え方に触れたり、共に活動したりする環境が必要です。本市の子どもたちが、望ましい教育環境の中で学び合うことができるための適正な学校規模・学校環境を整えることは、現在の教育行政に課せられた重大な責務であると考えます。

こうしたことから、教育委員会では、本年6月、小中一貫教育を推進する上での望ましい学校教育環境のあり方とそれを実現するための方針として、「福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」を策定しました。

このたび、この基本方針に基づき学校規模と学校配置の適正化を進めるにあたり、「学校規模と学校配置の適正化への取組方針」の第1要件に該当し、再編に向け、検討に入る学校について、取組の基本的な考え方と今後の取組の進め方等を示した「福山市学校規模・学校配置の適正化計画（第1要件）」を策定しました。

今後は、子どもたちにとってのより良い教育環境の整備と、学校教育の質の充実を図るために、本計画に基づき、小中学校の適正規模・適正配置の取組を進めてまいります。

“すべては子どもたちのために”

市民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、学校と家庭・地域が一丸となった、次代を生きる子どもたちのための教育環境づくりに取り組んでまいります。

1 学校規模・学校配置の適正化の取組にあたって

教育委員会では、本年6月、学識経験者や学校関係者、PTAや地域団体の代表者で構成する、福山市小中一貫教育推進懇話会の意見や、教員のアンケート調査結果(校長・教頭・主幹教諭・若手教員を対象)も参考に検討された福山市学校教育環境検討委員会の答申の内容を尊重し、本市のめざすこども像である「福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども」を育成するため、福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針を策定しました。

今後は、本基本方針に基づき、小中一貫教育の推進と学校規模・学校配置の適正化に取り組めます。

(1) 適正規模の基準

	学 校 (全学年の学級数)	学 級 (1学級あたりの人数)
小学校	12学級から18学級まで	16人以上
中学校	9学級から12学級まで	20人以上

*特別支援学級については、適正規模の基準の学級数には含みませんが、「広島県公立小・中学校学級編制基準」(1学級あたり8人)に基づいて設置し、引き続ききめ細やかな支援を行います。

(2) 適正規模とすることにより得られる教育効果

○集団での多様な人間関係を通じた学びの充実

多様な人間関係を通し、お互いのコミュニケーションを深め、子ども同士で様々な考え方に触れたり、共に活動したりする中で、確かな学力、豊かな人間性や社会性、健康・体力を育むことができます。また、班学習、体育の授業における団体競技、音楽の授業における合唱・合奏、部活動や学校行事など、一定規模の集団を前提とする活動を支障なく実施でき、学習効果が十分に発揮できます。

○指導体制の充実

適正な学級数を確保することにより、経験年数、専門性、男女比等に配慮した教員配置が可能となります。とりわけ、中学校においては、1校に10学級以上あればすべての教科担任を常勤で配置できるようになります。

また、教員相互の情報交換や研修機会が増え、教科研究や指導の充実を図ることができ、教員の資質及び指導力の向上につながり、教育効果が高まります。

2 適正化の取組方針

(1) 基本的な考え方

2015年（平成27年）5月1日時点の数値により、次の第1要件に該当する小中学校については、それぞれの児童生徒数の将来推計や学校の沿革、通学時間、通学距離、地理的条件などを総合的に考慮する中で検討し、再編による適正化を進める方向で速やかに地域との協議に入ります。なお、再編にあたっては、2020年度（平成32年度）までの早い時期の開校をめざし、それぞれの学校が培ってきた歴史・伝統や特色ある教育活動などを継承し、新たな学校としてスタートします。

協議の過程においては、再編対象校と同一の中学校区（再編後の中学校区も含む。）にあり、かつ、今後の児童生徒数・学級数の将来推計、地域の実情や学校施設の状況等を勘案する中で、より教育的効果等が上がると考えられる学校は、このたびの再編の枠組の中に加え検討していく考えです。また、施設一体型小中一貫教育校の整備の可能性についても、併せ検討していきます。

【第1要件】

小学校 過小規模校

（学級数1～5学級）

中学校 過小規模校 I

（学級数1～3学級かつ全ての学級で1学級あたりの人数が19人以下）

*要件の基準となる学級数、児童生徒数は、各年5月1日時点の数値とします。
学級数は通常学級の数を基本とします。

(2) 再編対象校と適正化の方策

	再編対象校	再編後の学校の位置	備考（中学校区）
小学校 (6校)	東村小学校	今津小学校	大成館中学校区
	山野小学校	加茂小学校	加茂中学校区
	広瀬小学校		
	服部小学校	駅家東小学校	駅家中学校区
	内浦小学校	千年小学校	千年中学校区
	内海小学校		
中学校 (3校)	山野中学校	加茂中学校	/
	広瀬中学校		
	内海中学校	千年中学校	

(3)適正化に向けた取組の進め方

ア 地域説明会の開催

適正化計画を進めるにあたっては、再編に係る学校ごとの説明会など、地域説明会を開催し、計画内容の説明を行います。

イ 開校準備委員会の設置

適正化計画に基づき、取組を進めるにあたっては、通学路、教材・教具、制服、事前交流の持ち方、教育活動やP T A活動、それぞれの学校の歴史や伝統、特徴ある取組の継承など、新しい学校づくりを円滑に進めるための諸課題について協議するため、再編後の学区となる地域ごとに、各学校の保護者や学校関係者、地域の代表者などを構成メンバーとする開校準備委員会を設置します。

ウ 市民への情報提供

地域説明会の概要や意見等は、市のホームページなどを通じて、積極的に情報提供を行います。

(4)考慮すべき事項

ア 通学区域の設定

学校の再編により通学区域が広がることから、安心安全な通学方法の確保とともに、児童生徒にとって過重な負担にならないよう、遠距離通学になる児童生徒には、通学距離・通学時間を考慮した通学支援策を検討し、実施します。

文部科学省『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』では、通学距離については、「徒歩や自転車による通学距離としては、小学校で4 km以内、中学校で6 km以内という基準は、おおよその目安として妥当」、通学時間については、「概ね1時間以内を一応の目安としたうえで、各市町村において、地域の実情や児童生徒の実態に応じて1時間以上や1時間以内に設定することの適否も含めた判断を行うことが適当」とされています。

本市においても、学校の適正配置にあたって、これらの基準を参考に、地域の実情や通学路の実態を踏まえた上で、児童生徒の負担面や安全面などに配慮する中で通学条件を設定します。

通学条件の基本的な考え方として、徒歩や自転車による通学距離については、小学校低学年の児童を考慮し、原則として、小学校で概ね2 km以内、中学校で概ね6 km以内とします。学校の再編の結果、通学距離がこれを超える場合は、路線バス等の交通手段を活用して通学することとし、通学費の補助を行います。公共交通機関による通学が困難な場合は、現在の学校から再編後の学校までの間を基本としたスクールバスなどの支援策を検討します。その際、通学時間が概ね1時間以内となるよう、運行ルート・運行回数・運行時間、乗降場所等の設定などについては、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。

また、障がいのある児童生徒に対しては、障がいの状態により保護者の送迎が必要な場合は、保護者に送迎を依頼し、通学費の補助を行います。公共交通機関又はスクールバスなどによる通学が可能な場合は、登校班の編成や登下校の見守り等、保護者と連携を図りながら、必要な配慮を行います。

イ 通学上の安全確保

学校の再編による新たな通学路については、開校準備委員会の協議を踏まえ、地域の交通事情、児童生徒の実態を考慮しながら、学校において、保護者（PTA・子ども会）、自治会、警察等と協議し、指定します。

学校の再編により通学区域が拡大することに伴い、自治会等地域団体と連携を密にしなが、交通指導員・スクールサポートボランティア等による、地域全体で登下校を見守る活動により、通学路の防犯及び交通安全の確保を図ります。

また、新たな通学路における安全確保策については、2014年度（平成26年度）に策定した「福山市通学路交通安全プログラム」に基づき、保護者、自治会等地域団体の協力のもとで危険箇所を抽出し、教育委員会、学校、保護者、道路管理者、警察及び自治会等地域団体による合同点検を行いながら、通学路の安全対策を推進していきます。

ウ 教育環境づくり

学校の再編に伴い、「集団にうまくなじめるか」「新しい友人関係が築けるか」「学校規模の違いや環境変化に対応できるか」などの児童生徒が抱く様々な不安を取り除き、新しい学校生活を円滑に迎えられるよう、関係校の教員が話し合いを行い、教育内容の準備を進めるとともに、児童生徒やPTAの事前交流を実施します。

再編後においても、国や県の制度を活用した教職員の加配等、きめ細やかな指導体制の整備に取り組みます。

【再編前】

- ・事前交流事業（合同授業・合同行事（運動会・遠足・児童会・生徒会等））
- ・教職員の事前協議及び交流（教育課程、学校行事等の計画）
- ・PTAの事前協議及び交流（組織、役割分担、主な活動等）
- ・地域・保護者等を対象とした学校施設内覧及び再編後の学校の教育内容等説明会

【再編後】

- ・再編前後の環境変化に対する児童生徒への学習支援、不安・悩みへの相談対応を行う教員や非常勤講師の配置

エ 障がいのある児童生徒への支援

再編前の学校において特別支援学級に児童生徒が在籍している場合は、再編後の学校においても、障がい種別に応じた特別支援学級の設置を存続します。

また、新たな学級で児童生徒が安心して学校生活を過ごすことができるよう、再編前から計画的に交流を行うなど、人間関係構築のための取組を実施します。再編後については、児童生徒の実態や学級の在籍数に応じて介助員を配置するなど、発達の段階や障がいの状態等、個別の状況に応じた支援策を検討します。

オ 適正化の取組により廃校となる学校の利活用

廃校となった学校施設の利活用については、災害時の避難場所としての役割のある屋内運動場の活用のほか、地域の活性化の視点をもって、それぞれの地域の特性も十分考慮しながら、公共施設全体のあり方の中で方向性を求めていく考えです。

3 学校別適正配置実施計画

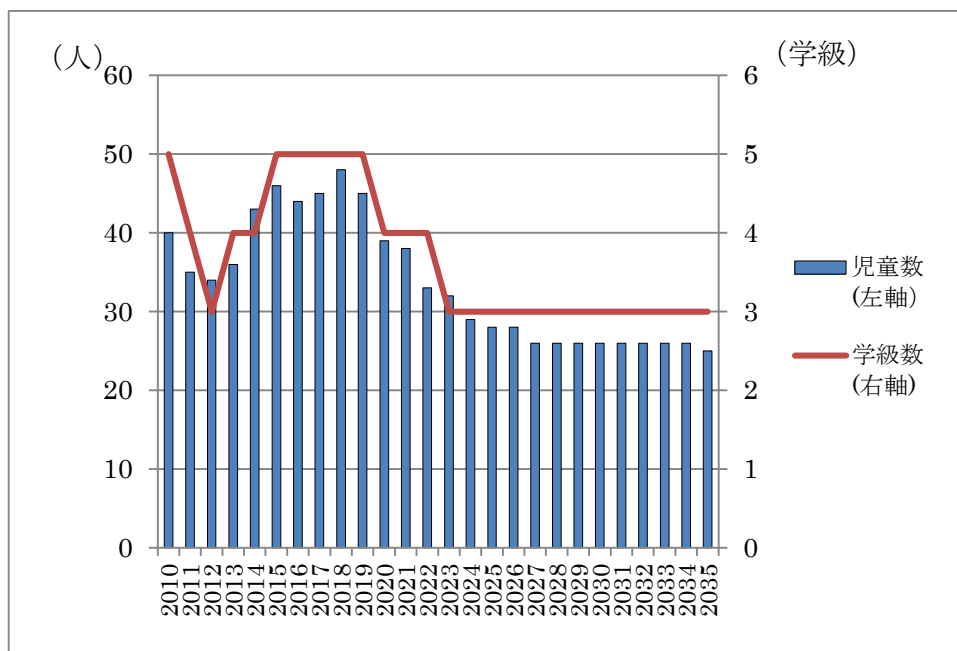
【小学校】

東村小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

東村小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数46人、学級数6学級（うち特別支援学級1学級）です。過去5年間の児童数は、35人から45人までの間で推移していますが、今後は45人前後で推移した後、減少傾向に転じ、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1874年（明治 7年） 東村・西村が協議・連合し、西村万福寺に設置
- 1953年（昭和28年） 松永市立東村小学校と名称変更
- 1966年（昭和41年） 福山市立東村小学校と名称変更
- 1992年（平成 4年） 新校舎完成
- 2004年（平成16年） 創立130周年記念事業

ウ 特色ある教育活動

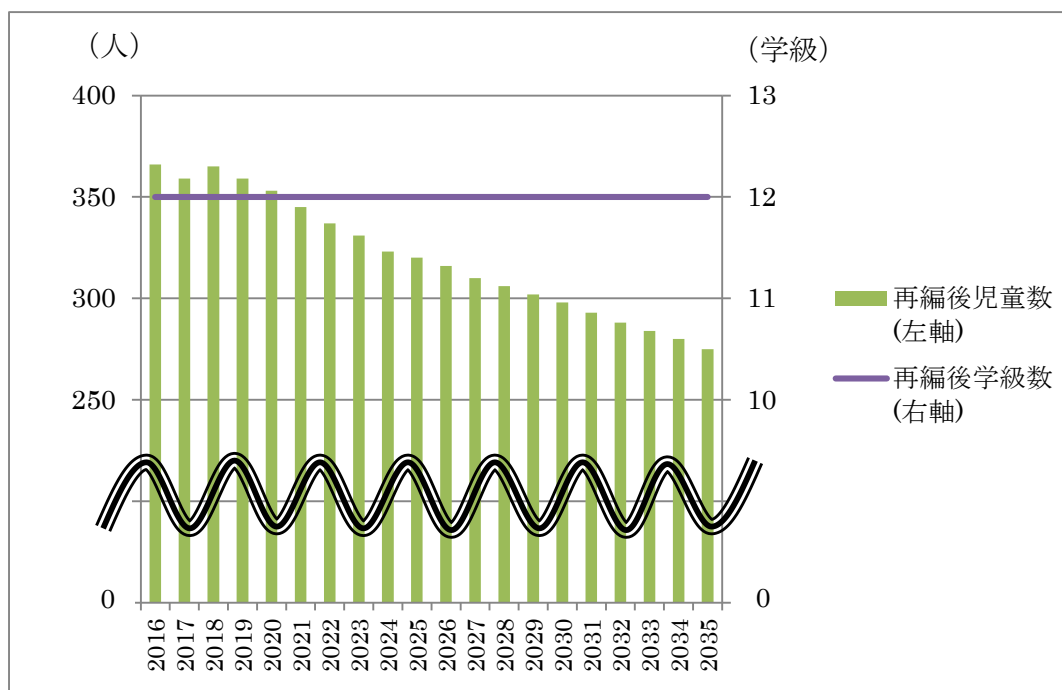
- ・全校言語活動の充実…スピーチ大会、俳句集会
- ・体験活動の充実…地域での体験活動（学校農園の活用等）、ふるさと学習、福

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法・位置

- ・東村小学校を、同じ大成館中学校区にある今津小学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の今津小学校とします。
(学校間直線距離：約1.9km)

イ 東村小学校と今津小学校の再編後の児童数・学級数の状況（推計）



*学級数は、通常学級の数

*児童数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

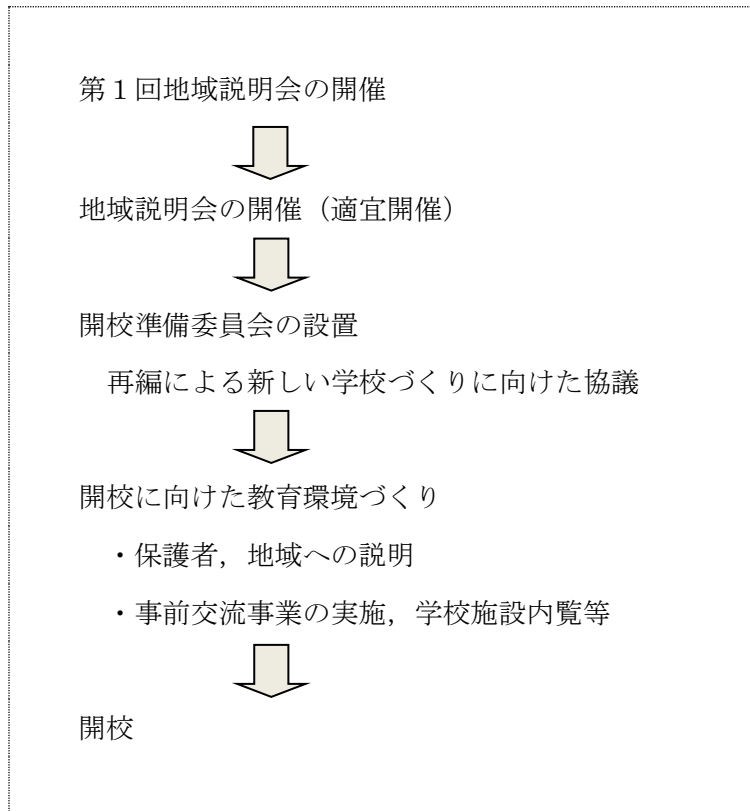
*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が12学級となり、その後も同様に推移し、適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が12学級となった場合、県の教員配置基準では、13人の教員が配置され、担任以外に音楽や理科などを担当する教員を配置することができ、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約3.8kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。

- ・再編にあたっては、両校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

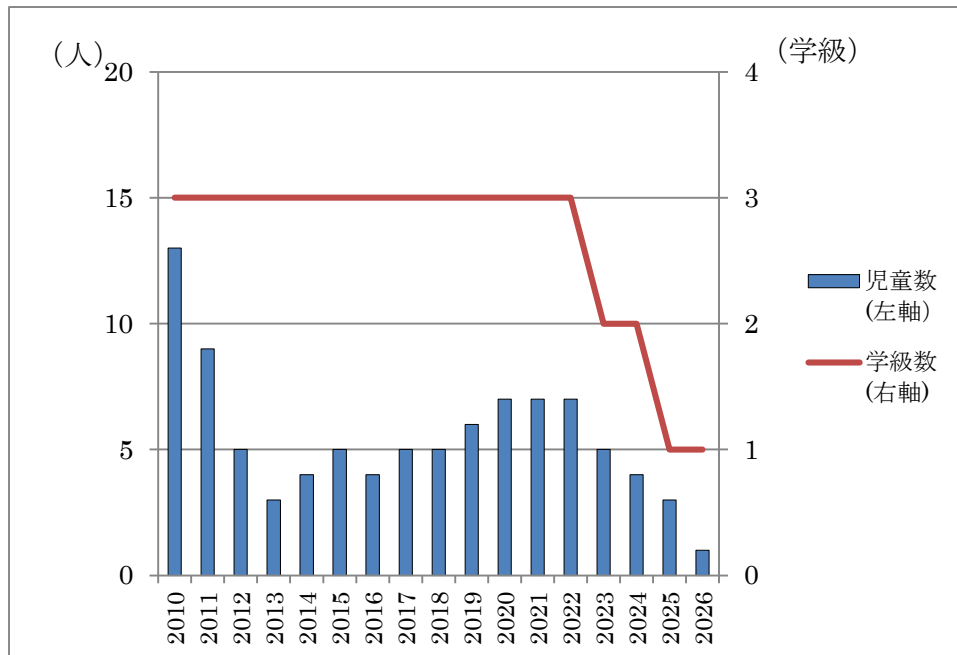


山野小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

山野小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数5人、学級数3学級です。児童数は5年前の4割程度となっており、今後も10人以下で推移し、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1873年（明治6年） 旧福山藩所有の誠之館分校の払下げを受け弘誠館小学校と称す
- 1875年（明治8年） 殿川小学校と名称変更
- 1900年（明治33年） 高等科を併設し殿川尋常高等小学校と名称変更
- 1934年（昭和9年） 山野尋常高等小学校と名称変更
- 1947年（昭和22年） 山野村立山野小学校と名称変更
- 1955年（昭和30年） 加茂町立山野小学校と名称変更
- 1967年（昭和42年） 新校舎及び給食センター完成
- 1975年（昭和50年） 福山市立山野小学校と名称変更
- 2002年（平成14年） 福山市立山野北小学校を統合

ウ 特色ある教育活動

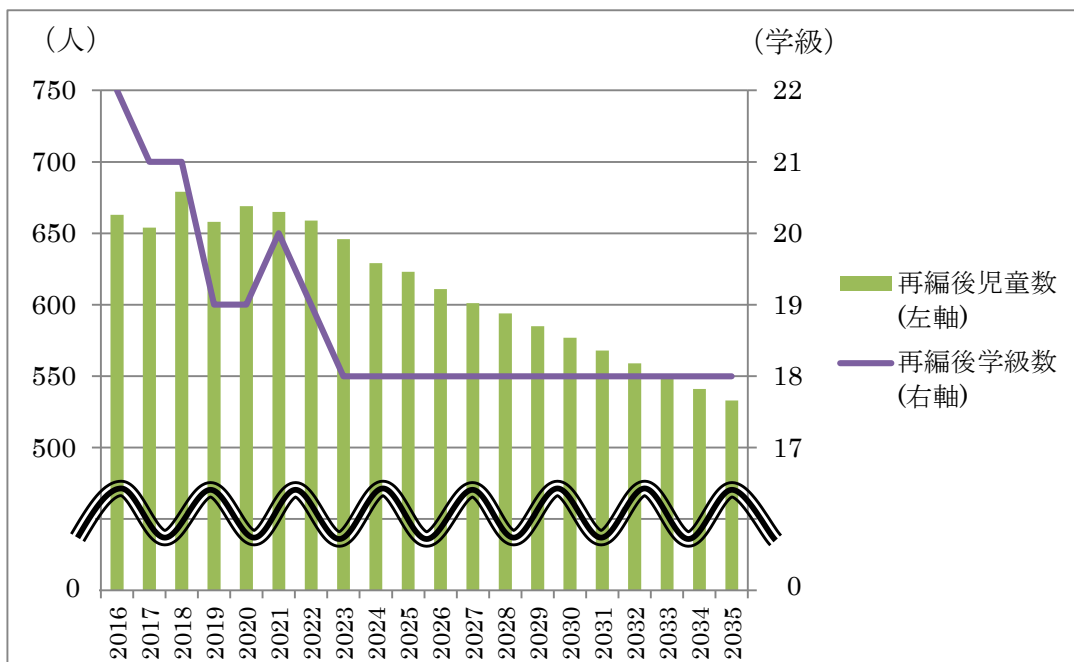
- ・愛校心・郷土愛の育成…地域とかかわる総合的な学習の時間（山野元気UPプラン、山野中学校模擬株式会社の支店）、地域の方へ元気を届ける小中合同活動（感謝の会の企画運営）
- ・小中合同活動…遠足、運動会、文化祭、駅伝大会、合同イングリッシュタイム

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・山野小学校を、広瀬小学校、加茂小学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の加茂小学校とします。
(学校間直線距離：約9.7km)

イ 山野小学校、広瀬小学校と加茂小学校の再編後の児童数・学級数の状況(推計)



*学級数は、通常学級の数

*児童数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

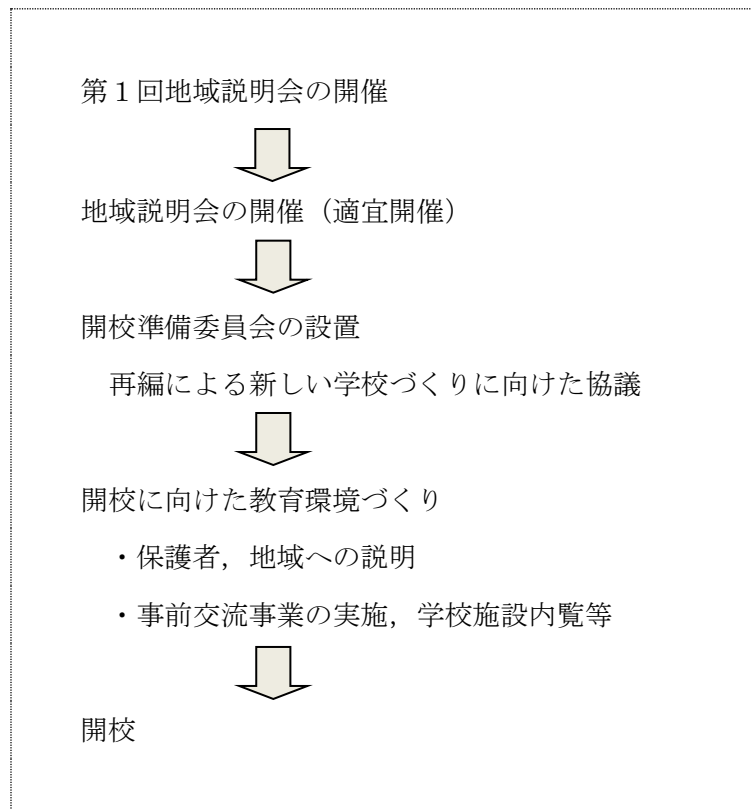
*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が19学級となり、その後20学級、19学級で推移し、2023年度（平成35年度）からは18学級の適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が19学級となった場合、県の教員配置基準では、21人の教員が配置され、担任以外に、主幹教諭や音楽、理科などを担当する教員を配置することができ、教員体制の充実が図られます。

- ・再編により学校までの通学距離が、最長約11.4kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・再編にあたっては、各校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

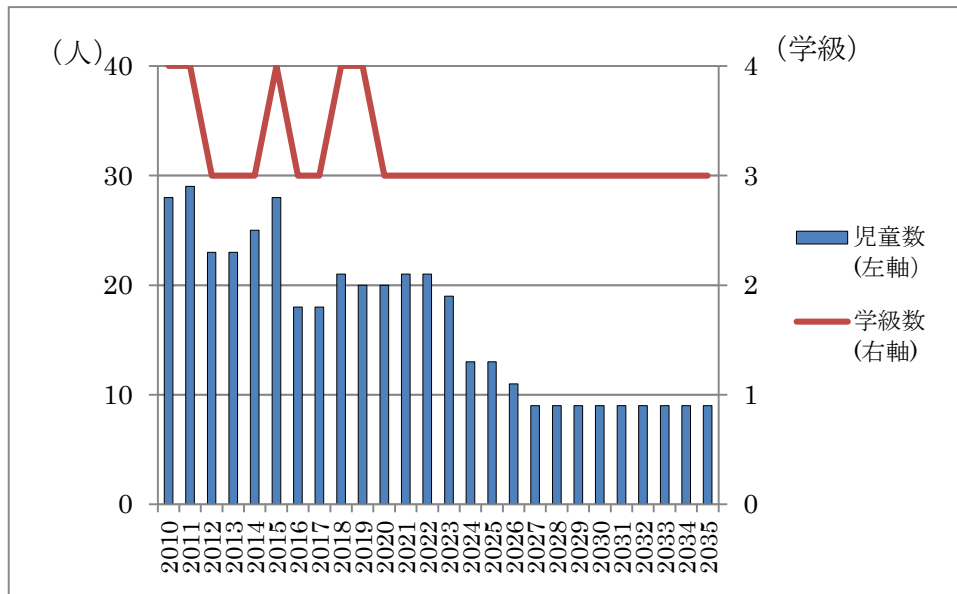


広瀬小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

広瀬小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数28人、学級数5学級（うち特別支援学級1学級）となっています。過去5年間の児童数は、25人前後でほぼ横ばいですが、今後は20人前後で推移した後、減少傾向に転じ、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1872年（明治5年） 種地域に啓蒙所発足
- 1878年（明治11年） 公立学校となる
- 1888年（明治21年） 芋原小学校と名称変更
- 1975年（昭和50年） 福山市立広瀬小学校と名称変更

ウ 特色ある教育活動

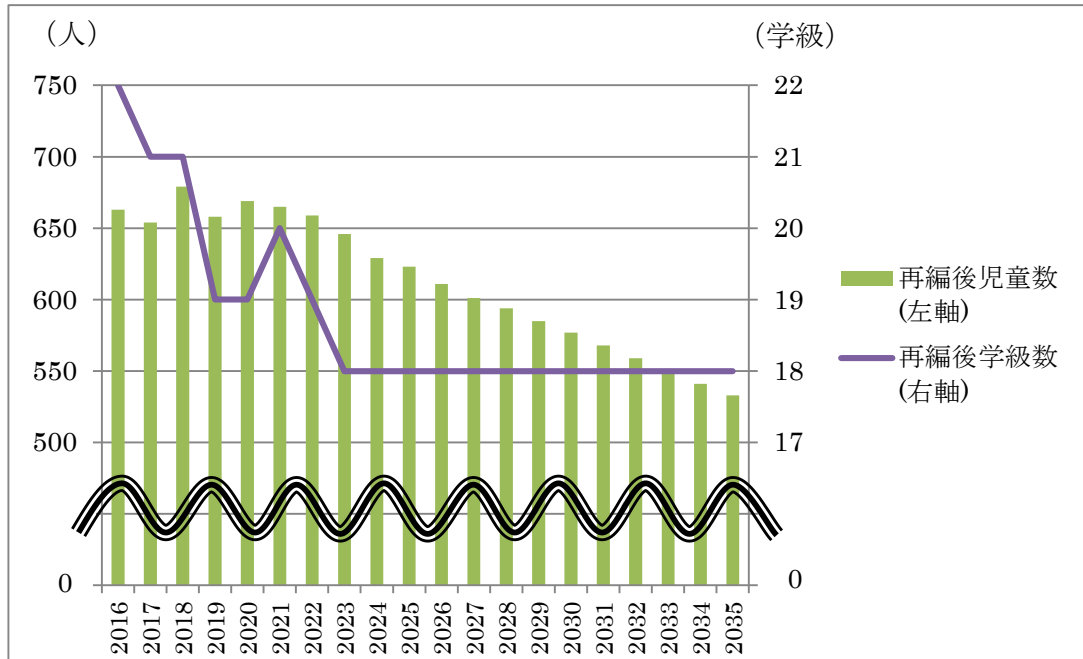
- ・運動への意欲・体力の向上…体育館“ぞうきんがけチャレンジ”
- ・地域と一体となった教育活動…ふれあい給食会，グラウンド・ゴルフ大会，大鍋を囲む会など

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・ 広瀬小学校を，山野小学校，加茂小学校と再編します。
- ・ 再編後の学校の位置は，現在の加茂小学校とします。
(学校間直線距離：約4.3 km)

イ 広瀬小学校，山野小学校と加茂小学校の再編後の児童数・学級数の状況(推計)



*学級数は，通常学級の数

*児童数及び学級数は，住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は，2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・ 再編後は，学級数が19学級となり，その後20学級，19学級で推移し，2023年度（平成35年度）からは18学級の適正規模の学校となり，クラス替えも可能となります。
- ・ 学級数が19学級となった場合，県の教員配置基準では，21人の教員が配置され，担任以外に，主幹教諭や音楽，理科などを担当する教員を配置することができ，教員体制の充実が図られます。
- ・ 再編により学校までの通学距離が，最長約9.2 kmと延びるため，路線バス，スクールバス等の交通手段を活用するなど，通学時間が概ね1時間以内となるように，通学手段を検討します。運行ルート，乗降場所等の設定等については，開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・ 再編にあたっては，両校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ，特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ，さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

第1回地域説明会の開催



地域説明会の開催（適宜開催）



開校準備委員会の設置

再編による新しい学校づくりに向けた協議



開校に向けた教育環境づくり

- ・保護者、地域への説明
- ・事前交流事業の実施，学校施設内覧等



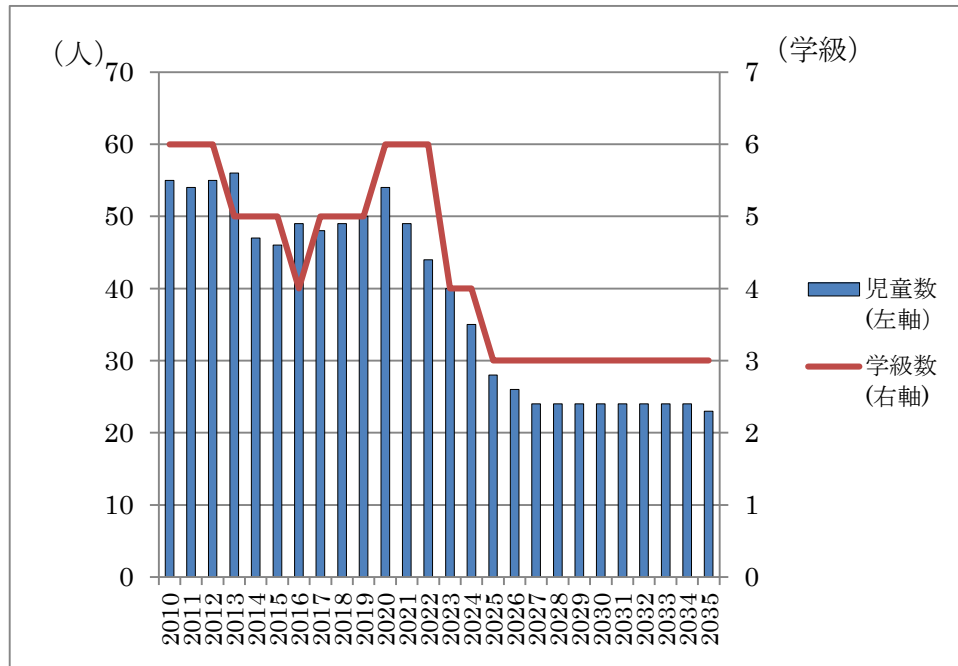
開校

服部小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

服部小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数46人、学級数7学級（うち特別支援学級2学級）となっています。児童数は5年前の8割程度となっており、今後は50人前後で推移した後、減少傾向に転じ、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- | | |
|--------------|----------------|
| 1909年（明治42年） | 服部村立服部尋常小学校設立 |
| 1947年（昭和22年） | 服部村立服部小学校と名称変更 |
| 1955年（昭和30年） | 元服部中学校校舎を引き継ぐ |
| 1975年（昭和50年） | 福山市立服部小学校と名称変更 |
| 2009年（平成21年） | 創立100周年記念式典 |

ウ 特色ある教育活動

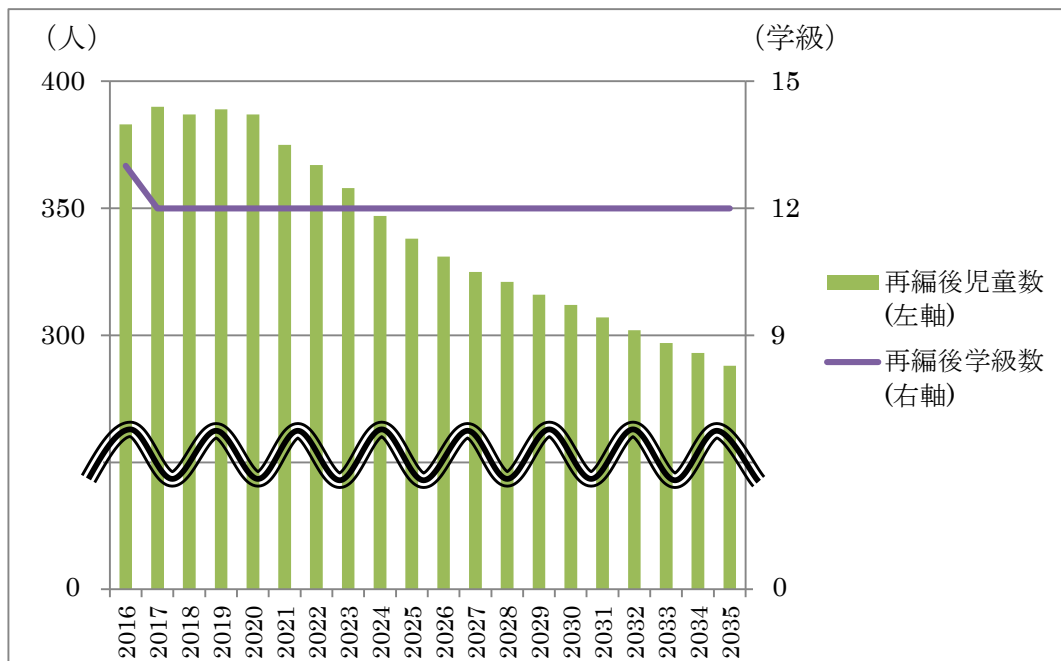
- ・服部の地域を学び、地域に学ぶ教育活動…環境学習発表（ほたる祭）、服部川クリーン大作戦、ホタル学習・環境学習・古墳巡り
- ・体験活動…鯛網漁体験

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・服部小学校を、同じ駅家中学校区にある駅家東小学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の駅家東小学校とします。
(学校間直線距離：約3.8km)

イ 服部小学校と駅家東小学校の再編後の児童数・学級数の状況（推計）



*学級数は、通常学級の数

*児童数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が12学級となり、その後も同様に推移し、適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が12学級となった場合、県の教員配置基準では、13人の教員が配置され、担任以外に音楽や理科などを担当する教員を配置することができ、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約6.4kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・再編にあたっては、両校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

第1回地域説明会の開催



地域説明会の開催（適宜開催）



開校準備委員会の設置

再編による新しい学校づくりに向けた協議



開校に向けた教育環境づくり

- ・保護者、地域への説明
- ・事前交流事業の実施，学校施設内覧等



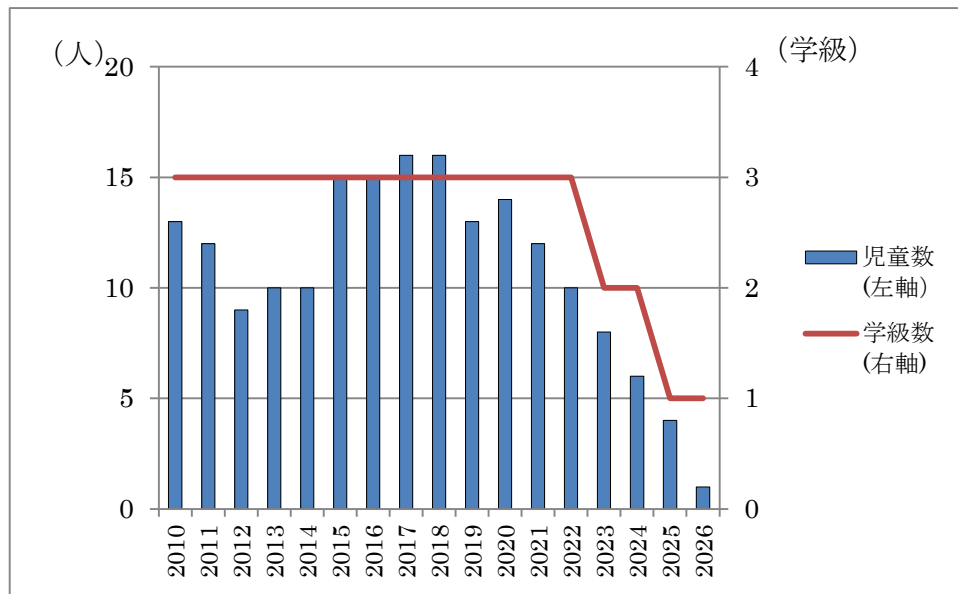
開校

内浦小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

内浦小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数15人、学級数4学級（うち特別支援学級1学級）となっています。過去5年間の児童数は、9人から15人までの人数で推移していますが、今後は横ばいで推移した後、減少傾向に転じ、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1872年（明治5年） 田島小学校内浦分校と称す
- 1888年（明治21年） 沼隈郡第14簡易小学校と名称変更
- 1892年（明治25年） 内浦尋常小学校と名称変更
- 1920年（大正9年） 内浦尋常高等小学校と名称変更
- 1941年（昭和16年） 田島東国民学校と名称変更
- 1947年（昭和22年） 田島町立田島小学校と名称変更
- 1955年（昭和30年） 内海町立内浦小学校と名称変更
- 1987年（昭和62年） 校舎完成
- 2003年（平成15年） 福山市立内浦小学校と名称変更
- 2004年（平成16年） 内浦小学校50周年記念祭

ウ 特色ある教育活動

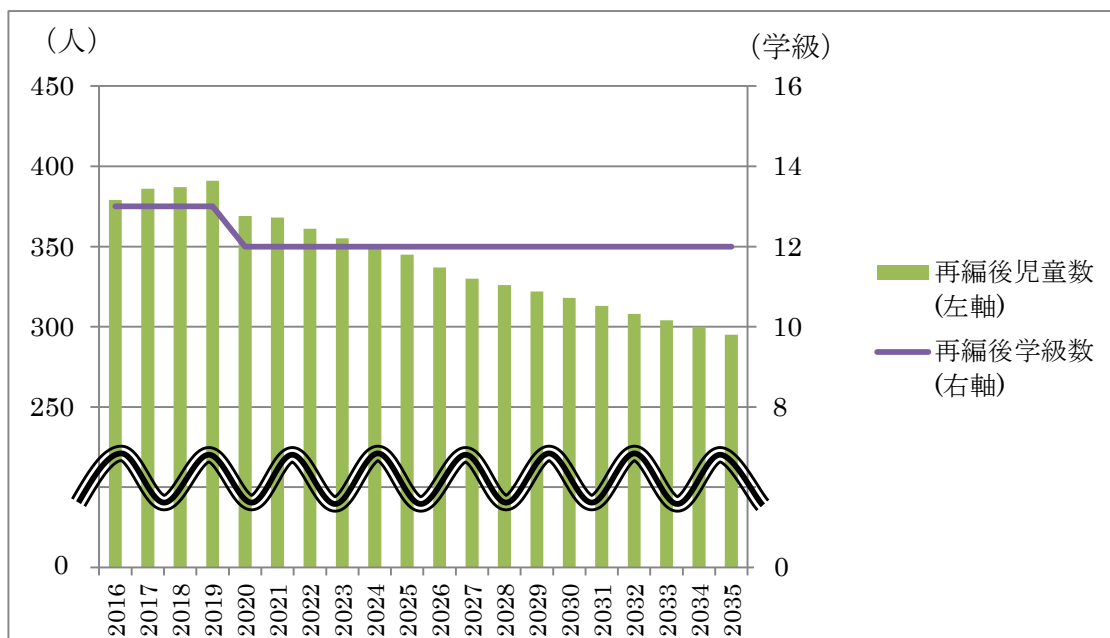
- ・地域を生きる教材としたうしお祭りやあさり掘り体験学習, 地域文化の伝承「箱崎大漁節」, 海の環境活動

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・内浦小学校を, 内海小学校, 千年小学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は, 現在の千年小学校とします。
(学校間直線距離: 約 3.6 km)

イ 内浦小学校, 内海小学校と千年小学校の再編後の児童数・学級数の状況(推計)



*学級数は, 通常学級の数

*児童数及び学級数は, 住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は, 2015年度(平成27年度)時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

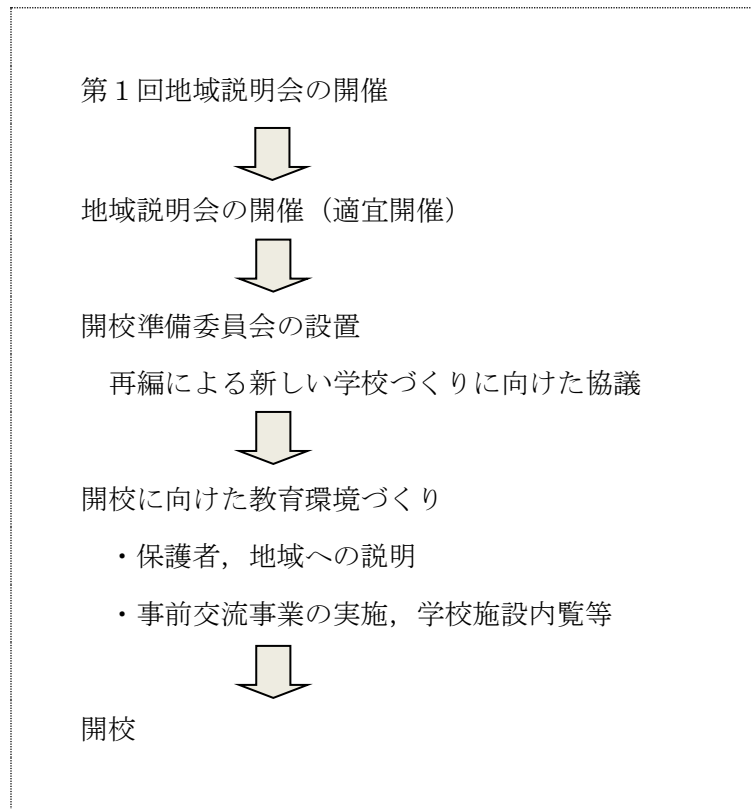
ウ 再編後の状況

- ・再編後は, 学級数が12学級となり, その後も同様に推移し, 適正規模の学校となり, クラス替えも可能となります。
- ・学級数が12学級となった場合, 県の教員配置基準では, 13人の教員が配置され, 担任以外に音楽や理科などを担当する教員を配置することができ, 教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が, 最長約7.2kmと延びるため, 路線バス, スクールバス等の交通手段を活用するなど, 通学時間が概ね1時間以内となるように, 通学手段を検討します。運行ルート, 乗降場所等の設定等については,

開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。

- ・再編にあたっては、各校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

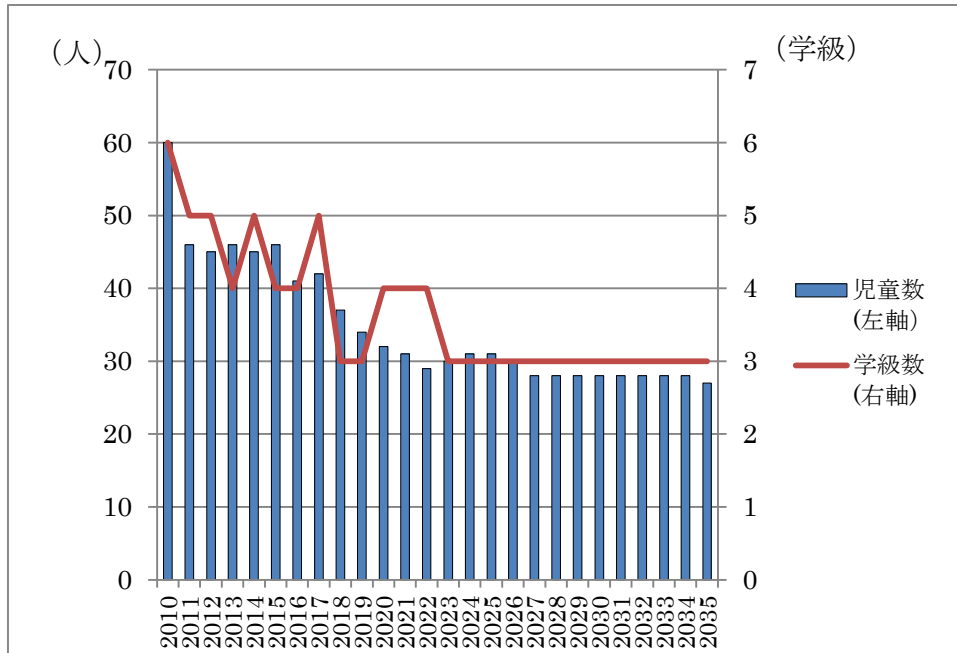


内海小学校

(1) 現状と課題

ア 児童数・学級数の推移と将来推計

内海小学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、児童数46人、学級数6学級（うち特別支援学級2学級）となっています。児童数は5年前の8割程度となっており、今後は40人前後で推移した後、減少傾向に転じ、複式学級の状態が続くことが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、児童数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1975年（昭和50年） 内海町立内海小学校設立
- 1994年（平成6年） 開校20周年記念式典
- 2003年（平成15年） 福山市立内海小学校と名称変更
- 2004年（平成16年） 開校30周年記念式典

ウ 特色ある教育活動

- ・エネルギー・環境教育…ユネスコスクールに加盟し、持続発展教育（ESD）を推進（定時・定点気象観測（グローブ活動））
- ・情操教育…全校版画

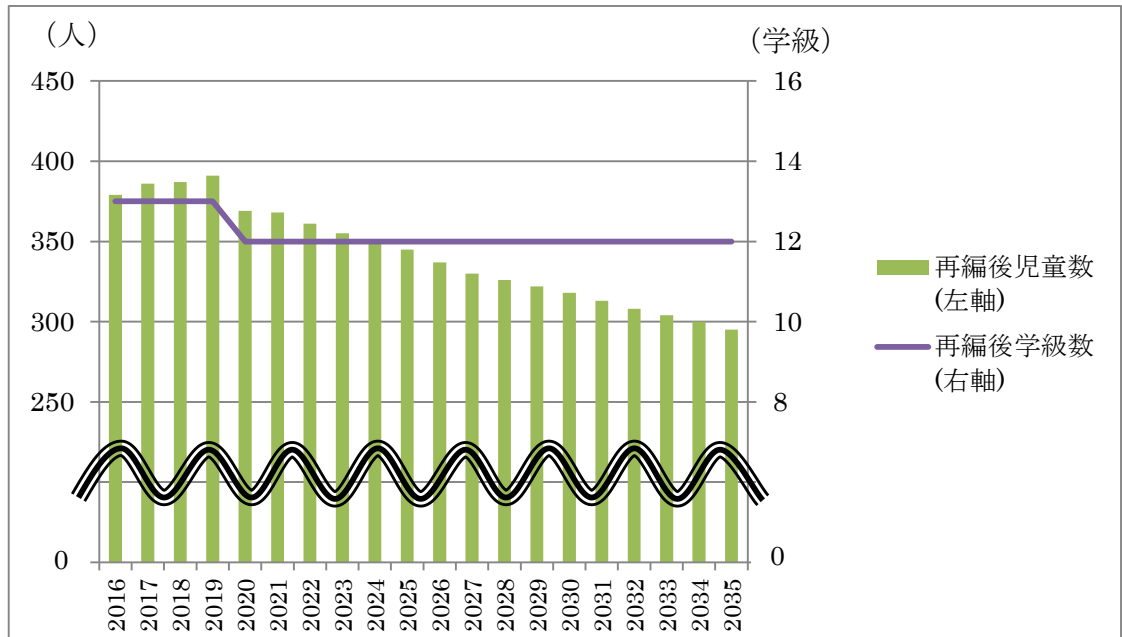
(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・内海小学校を、内浦小学校、千年小学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の千年小学校とします。

(学校間直線距離：約 5.4 km)

イ 内海小学校、内浦小学校と千年小学校の再編後の児童数・学級数の状況(推計)



*学級数は、通常学級の数

*児童数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は、2015年度(平成27年度)時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が12学級となり、その後も同様に推移し、適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が12学級となった場合、県の教員配置基準では、13人の教員が配置され、担任以外に音楽や理科などを担当する教員を配置することができ、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約8.1 kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・再編にあたっては、各校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

第1回地域説明会の開催



地域説明会の開催（適宜開催）



開校準備委員会の設置

再編による新しい学校づくりに向けた協議



開校に向けた教育環境づくり

- ・保護者、地域への説明
- ・事前交流事業の実施、学校施設内覧等



開校

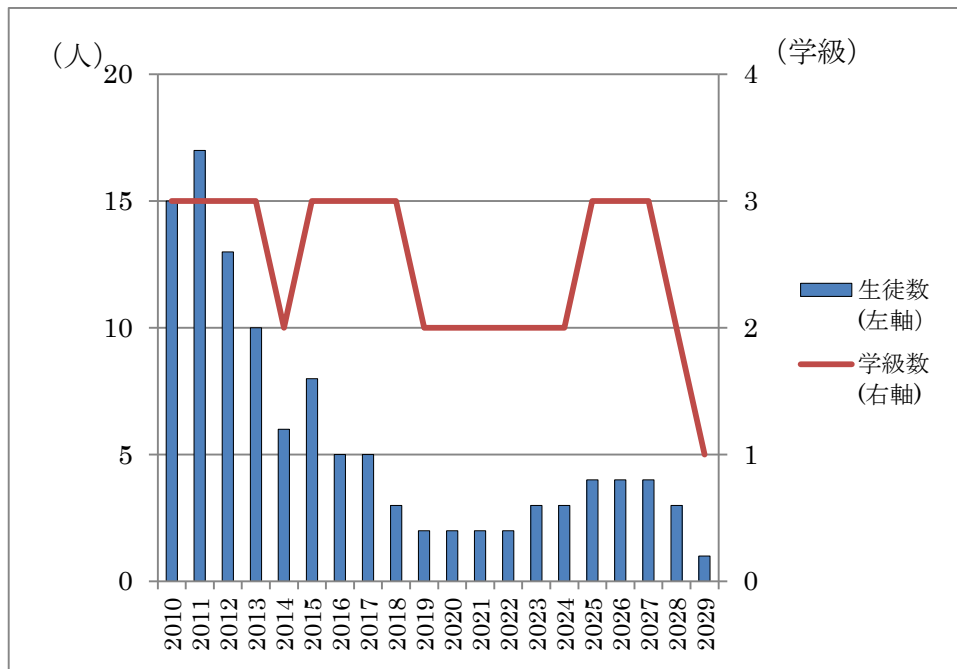
【中学校】

山野中学校

(1) 現状と課題

ア 生徒数・学級数の推移と将来推計

山野中学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、生徒数8人、学級数3学級となっています。生徒数は5年前の5割程度となっており、今後も5人以下で推移することが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、生徒数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1947年（昭和22年） 山野村立山野中学校設立
- 1950年（昭和25年） 新校舎へ移動
- 1955年（昭和30年） 加茂町立山野中学校と名称変更
- 1975年（昭和50年） 福山市立山野中学校と名称変更
- 1987年（昭和62年） 新校舎完成

ウ 特色ある教育活動

- ・思考力・表現力の育成…やまの熟議（総合的な学習の時間）
- ・グローバル感覚の育成…アントレプレナーシップ教育（模擬株式会社）、NIE活動

エ 教科担任の配置状況

2015年（平成27年）で、常勤教諭は6人となっており、すべての教科に常勤の教科担任を配置することができていない状況です。

区分	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育		技術	家庭	英語	合計
							男	女				
教諭	1	1		1	1				1		1	6
			(1)			(1)						(2)
非常勤							1			1		2

*網掛けは、常勤の教科担任を配置することができていない教科

*（ ）内数字は、自校の他教科の教諭（免許状所有者）又は他の中学校の教諭が兼任

オ 部活動実施状況（2015年（平成27年）7月末現在）

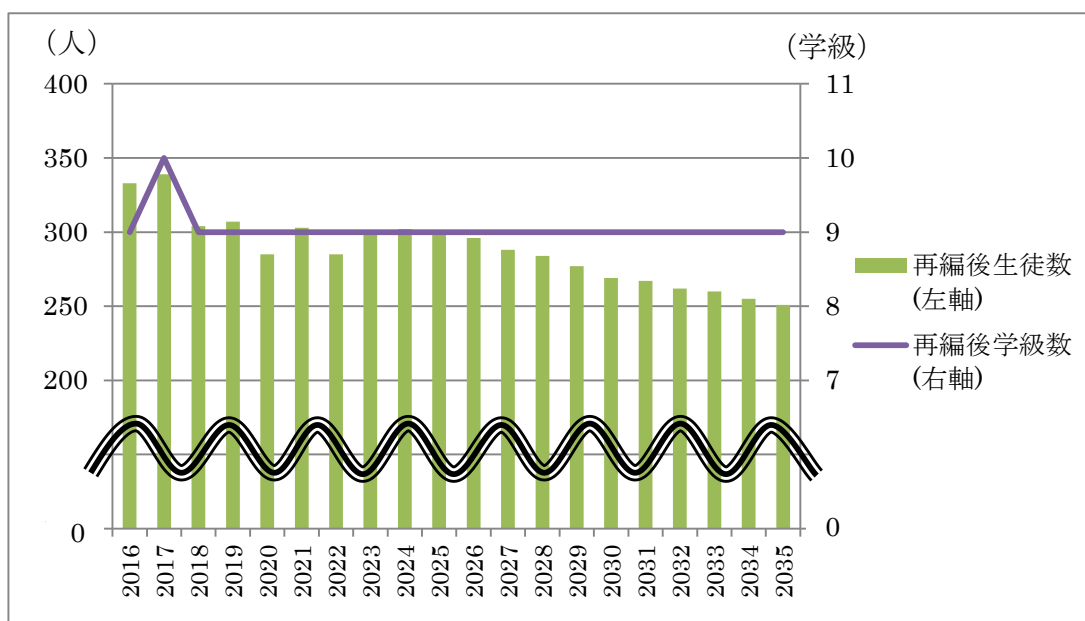
バドミントン（男女）、総合文化（男女）

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・山野中学校を、広瀬中学校、加茂中学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の加茂中学校とします。
（学校間直線距離：約10.6km）

イ 山野中学校、広瀬中学校と加茂中学校の再編後の生徒数・学級数の状況（推計）



*学級数は、通常学級の数

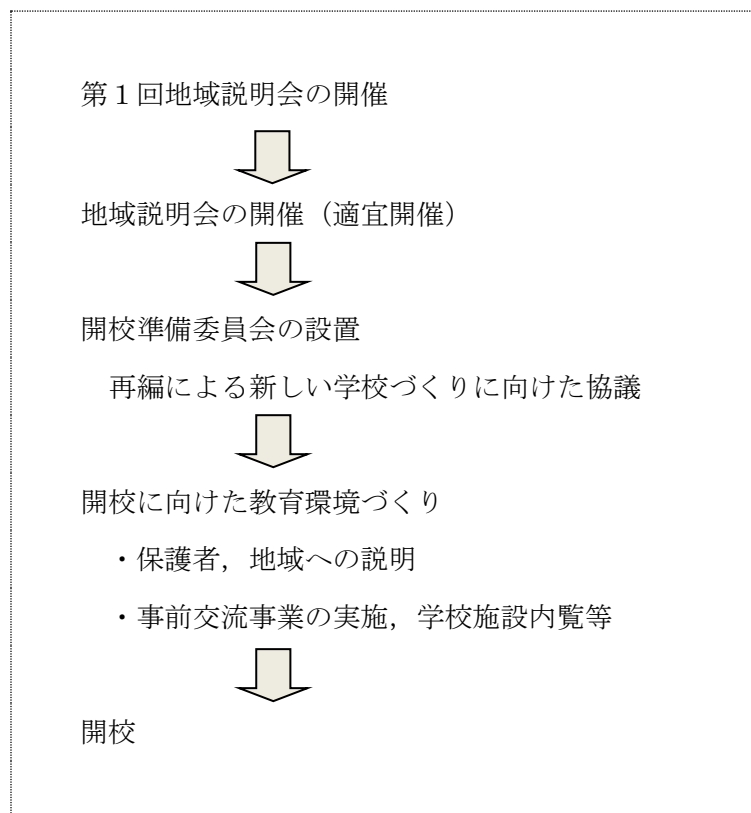
*生徒数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が9学級となり、その後も同様に推移し、適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が9学級となった場合、県の教員配置基準では、14人の常勤教員が配置され、常勤の教科担任が増加し、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約12.3kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・加茂中学校において、部活動（2015年（平成27年）7月末現在）は、運動部は、陸上競技（男女）、バスケットボール（男女）、サッカー（男女）、バレーボール（女子）、ソフトテニス（男女）、卓球（男子）、バドミントン（女子）の7種目、文化部は、ブラスバンド（吹奏楽）（男女）、創作（男女）の2種目を実施しており、生徒の部活動の活動種目が充実します。
- ・再編にあたっては、各校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

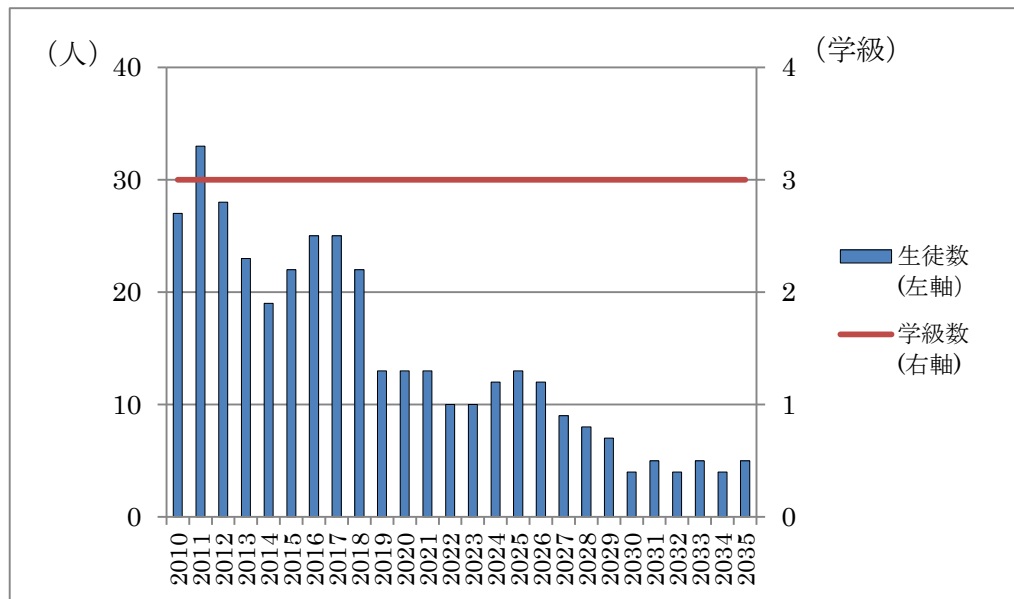


広瀬中学校

(1) 現状と課題

ア 生徒数・学級数の推移と将来推計

広瀬中学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、生徒数22人、学級数4学級（うち特別支援学級1学級）となっています。過去5年間の生徒数は、減少傾向にあり、今後も20人前後を横ばいで推移した後、減少に転じることが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、生徒数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- | | |
|--------------|----------------|
| 1947年（昭和22年） | 広瀬村立広瀬中学校設立 |
| 1948年（昭和23年） | 校舎完成 |
| 1955年（昭和30年） | 加茂町立広瀬中学校と名称変更 |
| 1975年（昭和50年） | 福山市立広瀬中学校と名称変更 |
| 1989年（平成元年） | 新校舎完成 |

ウ 特色ある教育活動

- ・豊かな感性と表現力の育成…俳句づくり（俳句会）、民舞「みかぐら」

エ 教科担任の配置状況

2015年（平成27年）で、常勤教諭は8人となっており、すべての教科に常勤の教科担任を配置することができていない状況です。

区分	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育		技術	家庭	英語	合計
							男	女				
教諭	1	1	1	1	1	1	1				1	8
非常勤									1	1		2

*網掛けは、常勤の教科担任を配置することができていない教科

オ 部活動実施状況（2015年（平成27年）7月末現在）

ソフトテニス（男女）

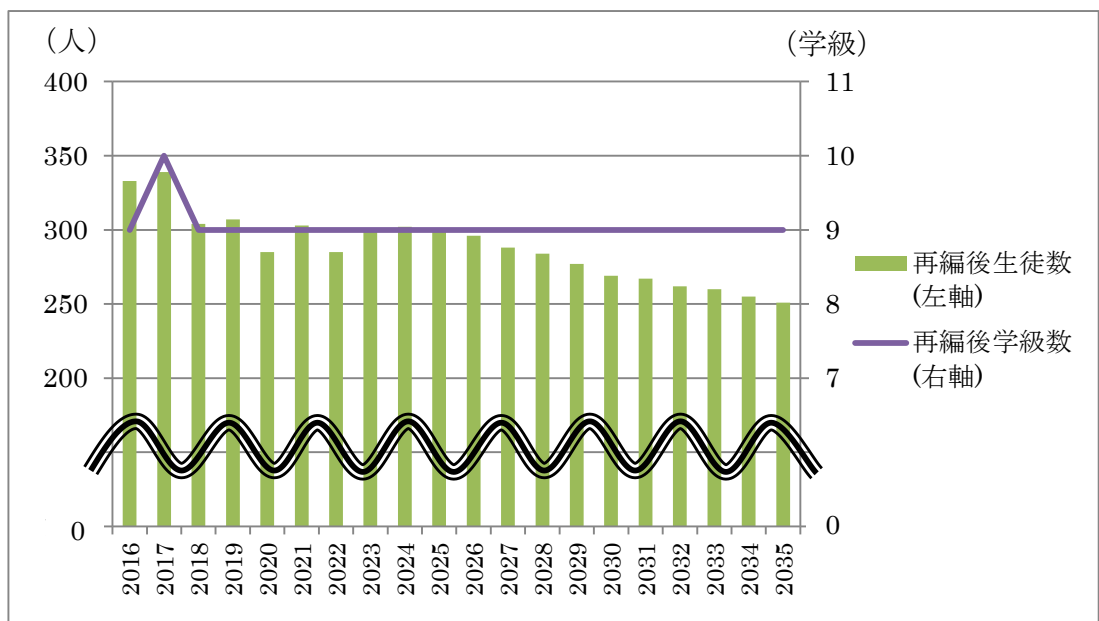
(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・広瀬中学校を、山野中学校、加茂中学校と再編します。
- ・再編後の学校の位置は、現在の加茂中学校とします。

（学校間直線距離：約4.8km）

イ 広瀬中学校、山野中学校と加茂中学校の再編後の生徒数・学級数の状況（推計）



*学級数は、通常学級の数

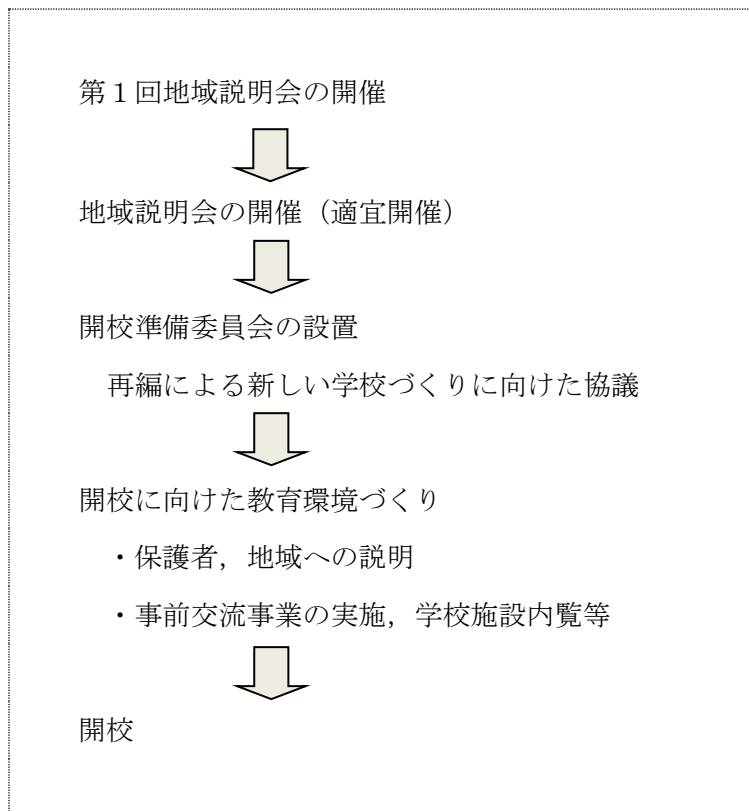
*生徒数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、学級数が9学級となり、その後も同様に推移し、適正規模の学校となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が9学級となった場合、県の教員配置基準では、14人の常勤教員が配置され、常勤の教科担任が増加し、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約7.5kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・加茂中学校において、部活動（2015年（平成27年）7月末現在）は、運動部は、陸上競技（男女）、バスケットボール（男女）、サッカー（男女）、バレーボール（女子）、ソフトテニス（男女）、卓球（男子）、バドミントン（女子）の7種目、文化部は、ブラスバンド（吹奏楽）（男女）、創作（男女）の2種目を実施しており、生徒の部活動の活動種目が充実します。
- ・再編にあたっては、各校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

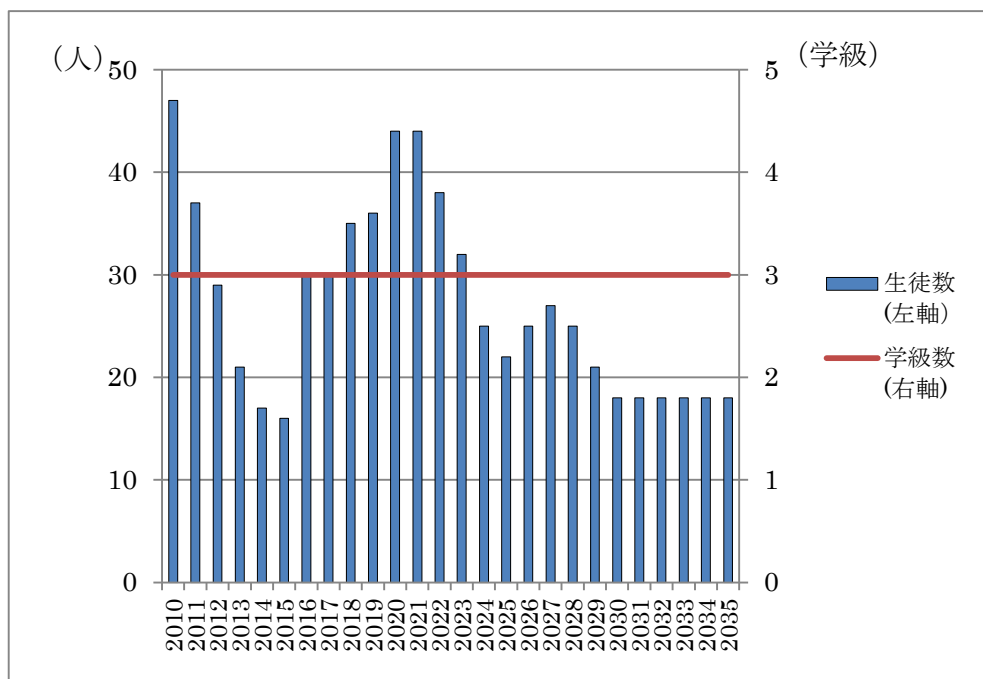


内海中学校

(1) 現状と課題

ア 生徒数・学級数の推移と将来推計

内海中学校は、2015年（平成27年）5月1日現在で、生徒数16人、学級数3学級となっています。生徒数は5年前の3割程度となっており、今後も20人から40人までの範囲で推移することが想定されます。



*学級数は、通常学級の数

*2010年度～2015年度は、各年度5月1日現在の実績

*2016年度以降は、生徒数は住民基本台帳をもとにした推計値、学級数は2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

イ 主な学校の沿革

- 1947年（昭和22年） 田島村立田島中学校，横島村立横島中学校設立
- 1949年（昭和24年） 沼隈郡学校組合立田島中学校と名称変更
- 1953年（昭和28年） 田島村立田島中学校，横島村立横島中学校と名称変更
- 1955年（昭和30年） 内海町立東中学校，内海町立西中学校と名称変更
- 1973年（昭和48年） 内海町立内海中学校設立，新校舎完成
- 1982年（昭和57年） 創立10周年記念「教育を語る父母と教師の集い」
- 1993年（平成5年） 創立20周年記念行事文化祭開催
- 2003年（平成15年） 福山市立内海中学校に名称変更

ウ 特色ある教育活動

- ・ 6つの感動・体験プログラム…①学習の浜で年6回の地域学習②夏季休業中の生徒会主催の地域清掃③若潮体験で地域の聞き取り学習と訪問学習④学校農園で栽培活動⑤修学旅行で体験学習⑥ウォークラリーと飯盒炊さん

エ 教科担任の配置状況

2015年（平成27年）で、常勤教諭は6人となっており、すべての教科に常勤の教科担任を配置することができていない状況です。

区分	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	体育		技術	家庭	英語	合計
							男	女				
教諭	1	1	1	1	1						1	6
						(1)			(1)			(2)
非常勤							1			1		2

*網掛けは、常勤の教科担任を配置することができていない教科

*（ ）内数字は、自校の他教科の教諭（免許状所有者）又は他の中学校の教諭が兼任

オ 部活動実施状況（2015年（平成27年）7月末現在）

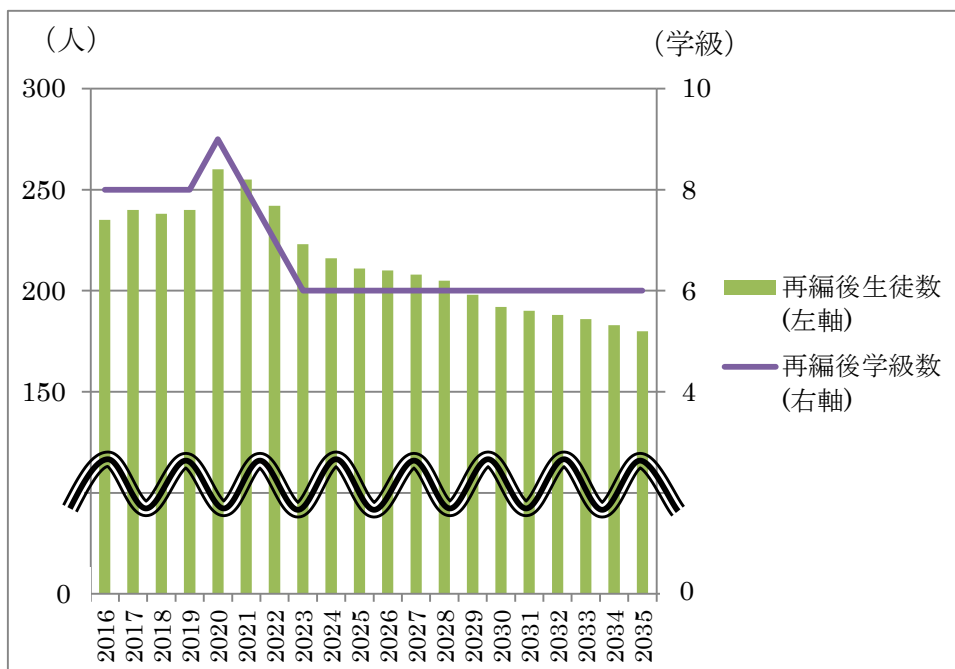
バスケットボール（男子）、ソフトテニス（男女）、卓球（男女）

(2) 適正配置の方針

ア 適正配置の方法と位置

- ・ 内海中学校を、千年中学校と再編します。
- ・ 再編後の学校の位置は、現在の千年中学校とします。
(学校間直線距離：約2.7km)

イ 内海中学校と千年中学校の再編後の生徒数・学級数の状況（推計）



*学級数は、通常学級の数

*生徒数及び学級数は、住民基本台帳をもとにした推計値

*学級数は、2015年度（平成27年度）時点の広島県の学級編制基準に基づき算出

ウ 再編後の状況

- ・再編後は、9学級の後、8学級、7学級と推移し、2023年度（平成35年度）からは6学級となり、クラス替えも可能となります。
- ・学級数が6学級となった場合、県の教員配置基準では、9人の常勤教員が配置され、常勤の教科担任が増加し、教員体制の充実が図られます。
- ・再編により学校までの通学距離が、最長約7.3kmと延びるため、路線バス、スクールバス等の交通手段を活用するなど、通学時間が概ね1時間以内となるように、通学手段を検討します。運行ルート、乗降場所等の設定等については、開校準備委員会の協議を踏まえ決定していきます。
- ・千年中学校において、部活動（2015年（平成27年）7月末現在）は、運動部は、バスケットボール（男女）、サッカー（男女）、軟式野球（男女）、バレーボール（女子）、ソフトテニス（女子）、卓球（男女）の6種目、文化部は、ブラスバンド（男女）、美術（男女）の2種目を実施しており、生徒の部活動の活動種目が広がります。
- ・再編にあたっては、両校が培ってきた歴史・伝統を踏まえ、特色ある教育活動や実績等を引き継ぎ、さらなる発展をめざした特色ある学校づくりを推進します。

(3) 開校までの流れ

第1回地域説明会の開催



地域説明会の開催（適宜開催）



開校準備委員会の設置

再編による新しい学校づくりに向けた協議



開校に向けた教育環境づくり

- ・保護者、地域への説明
- ・事前交流事業の実施，学校施設内覧等



開校